

「クリーンアップ作戦」で、地域をきれいに!

河川清掃活動

阿東支部

平成十四年七月二十二日、阿東町とむつみ村では河川愛護運動の一環として河川の清掃及び草刈りが行われました。この活動は阿東土木工友会が主催し、山口県建設業協会阿東支部の協賛のもとに実施しているものです。
今年には二十企業から約六十名の皆さんが参加し、阿東町とむつみ村にかかる蔵目喜川、生雲川、阿武川、篠目川の四河川を五つの班に分かれて清掃しました。
梅雨時期の雨で雑草は伸び放題



(株)武田組 武田 哲也さん

加えて、三十度を超える猛暑で、草を刈るのにも一苦労です。生雲地区の班長をされていた(株)武田組の武田哲也さんにお話を伺うと、「最初の頃は川の中まで刈っていましたが、今は刈っていません。草があらると水質がよくなるので、刈らな



いはうが環境にはいいんです。しかしその分、大雨時には水位があがるので災害が心配ですね。兼ね合いが難しいですよ」と話されていました。
このあたりでは、刈った草の一部を牛の肥料やむつみ村の昆虫王国で使われるそうです。
草を刈り終えた川縁はすっきりと涼しげで、川のせせらぎが一層澄んで聞こえました。作業に参加

暑い中での草刈り作業



された皆さん本当にお疲れさまでした。

河川清掃活動

長門支部

長門地域では、河川愛護月間が7月1日から開始されているため、毎年その月間にあわせて河川清掃活動が行われています。



草刈り作業

深川川の二か所、観月橋から板持の遺跡までの区間と、JR美祿線鉄道付近、あわせて四百カメートルくらいの田をのべ10〜15人で掃きました。長門建築協同組合と建設業云長門支部が合同でつため、約10社のうち毎年2社が交代で作業をしており、今年も続けています。今年はいくかの雨の中の作業となり、作業効率がなかなか上がりませんが、刈った草などを2ト



と刈っていました。地域の各自治会でも清掃活動はされているのですが、それでも清掃しにくい部分やできない部分が出てきます。それらを補うという形で河川愛護月間にあわせて河



雨に打たれた草は刈りにくい

川清掃をおこない、地域へ貢献しているそうです。

県消防防災ヘリ「きらら」も迫力たっぷり登場!!

2002年総合防災訓練と岩国

大地震発生に加えて、もしも台風が接近したら?

もしも山口県で大規模な地震・風水害が発生したら、あなたはどうしますか。そうした万一の災害に備えようと、住民や地域団体と県・市町村の防災関係機関が一体となって毎年行っている大規模な「総合防災訓練」(主催/山口県防災会議・岩国市防災会議)が平成十四年八月二十九日、岩国市錦帯橋近くの横山河川敷運動広場で行われました。



火事に対する消化活動

訓練の目的は「防災関係機関の連携を一層強化すること」と「防災関係の職員等だけでなく地域住民の防災に対する意識も高めること」にあります。約八十機、関千三百人が訓練に参加しました。



今回の訓練は「マド・グニチュード」の大規模な地震と「台風接近」を想定した訓練と、コンピナートを擁する岩国市の状況をふまえて「化学工場での薬剤流出」を想定して行われました。

訓練には地域の自主防災組織によるパケツリレーなどの初期消火や消防団等による消火・救助訓練はもちろんです。救援物資などを届ける山口県・広島県のバイクのボランティア団体、県消防防災ヘリ「きらら」、自衛隊ヘリ5機なども参加。



ヘリによる救助訓練

大型ヘリの県消防防災ヘリ「きらら」は砂ぼこりを巻き上げながら中層ビルに取り残された人の救助に当たり、自衛隊ヘリは被災地偵察・空中消火・物資搬送を行うなどして、会場は迫力たっぷりの轟音と熱気に包まれています。



バックホーを操る村橋さん



県建設業協会岩国支部も、道路上の障害物の緊急除去に出動! 山口県建設業協会岩国支部も、この日の訓練に参加しました。本部からの要請を受けてバックホーを出動させ、車両などの通行を妨

げている障害物をすばやく緊急除去。その作業を担当した大型特殊40年のキャリアを有する(株)藤川興業所の村橋正夫さんは「災害の中での作業ですから、二次災害が起きないように、周囲の安全を十分確認しながらも迅速に処理することが大事だと思います」と語ってくれました。
自然災害の発生を未然に防ぐことはできなくとも、皆さんの関係機関の緊密な連携や、県民一人ひとりの意識と協力があれば、その被害を最小限にとどめることができる。そのことを実感した総合防災訓練でした。